

しあわせなまちをデザインする

ワークショップ通信

ナンバー1（平成26年2月）発行：東浦町建設部都市計画課

まちづくり講演会

「コンパクトで住みよいまちへ」

を開催しました。

住民の皆さんにコンパクトシティへの関心をもていただくため、2月15日に文化センターで、名城大学都市情報学部教授の海道清信さんをお招きして、まちづくり講演会を開催しました。

講演会では、神谷町長のあいさつからはじまり、なぜコンパクトなまちづくりが必要か、また、東浦町でどのように活かしていけるのかを考える契機としてほしい、という話がありました。

続いて、海道先生の講演では、「今後日本の人口が急速に減少していくと想定されており、将来にわたり現在の都市構造の維持が難しくなる。よって、都市構造もまとまりのある形態に変えて、活気のある中心市街地を維持形成し、低炭素・資源循環型の都市空間を形成していく必要がある。人口減少をチャンスと捉え、そのまちが持つ個性を活かした魅力的なまちづくりをコンパクトなまちづくりと共に進めていく必要がある。」という話がありました。その他、各地の事例紹介などもあり、コンパクトなまちづくりの必要性について理解することができました。

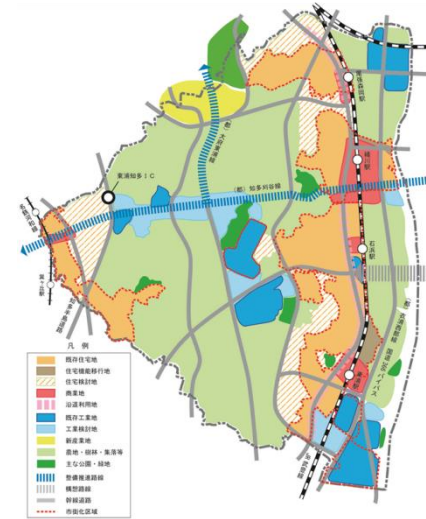


第1回ワークショップを開催しました。

町では、暮らしている人が暮らし続けたいくなるまち、新たに住みたいくなる人が増えるまちづくりをするために、

日常生活に必要な商業施設、医療施設などの事業者の方と利用者である皆さんが主体のワークショップにより、具体的なまちづくり計画を策定したいと考えており、第1回のワークショップを開催しました。

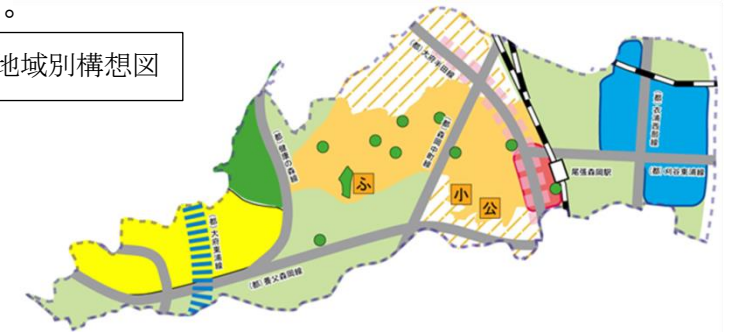
①まずは、都市計画マスタープランについて説明、東浦町における将来の交通体系や土地利用及び市街地整備の方針などを明らかにすることを目的として定められたものです。



将来都市構造や土地利用構想図により、東浦町の将来像や各種整備計画が示されています。

さらに、地域別構想では、各地区のまちづくりの目標が作成されています。

森岡地域の地域別構想図



②続いて、まちづくり計画について

都市計画マスタープランを参考に、各地区の課題を抽出してみましょう。

そこから、地区の課題解決のために、どのような施設の配置が必要か、生活に必要な施設とは、銀行、郵便局、病院、スーパーマーケット、商店、飲食店、など、公共施設としては、学校、図書館、コミュニティセンター、地区内道路や公園などの配置はどうあるべきか、それらを誘導するためには、どのような建築の制限が必要か、といったことをワークショップの皆さんで検討して決めていきます。

③最後に、ワークショップの進め方と各地区のグループで自己紹介、役割分担、スケジュールの確認を行いました。

次回、第2回では、課題の抽出となりますので、皆さんに次回までに各自、普段住んでいて感じることなどを課題シートに記入してもらうようお願いいたしました。

次回からは各地区に分かれて、それぞれの地区について考えていきます。各地区のワークショップは、毎月1回、土日に2時間を目安として開催し、8月まで7回のワークショップを実施します。

ワークショップ参加者の感想

- 長期間なハード面でのまちづくりを検討していくということが具体的にわかりました。
- ワークショップで出た意見・提案がマスタープランと異なる点が出た場合、どの様に上位プラン反映されるかが判らないその仕組みがあるのか。
- 他地区のまとめたものも参考にしたい。